

## 琵琶湖のブルーギル繁殖状況調査 - 20年前と比べて本当に減ったのか -

中尾博行（琵琶湖博物館うおの会）

琵琶湖のブルーギルは 1990 年代後半ごろから急増し、2010 年代前半までは特に沿岸部で他魚種を圧倒する生息量であったが、2017 年ごろから急減したとされている。一方、琵琶湖沿岸部の水路や内湖での採集調査では、いまだブルーギルがよく採集される地点もある（うおの会、未発表）。演者は過去 2002 年と 2003 年に琵琶湖北湖においてブルーギルの詳細な産卵状況調査を行い、報告した（中尾ほか、2006）。同地点において約 20 年ぶりに簡易的な産卵床数の調査を行い、当時の結果との比較を試みた。

2024 年 7 月、8 月に、過去の調査地点と同場所である琵琶湖北湖の通称「奥出湾」南端部の小湾において、計 4 回の潜水観察を実施し、産卵床数を記録した。その結果、7 月 7 日に 32 個、7 月 20 日に 33 個、8 月 3 日に 11 個の産卵床を確認し、8 月 12 日は産卵床を確認できなかった。

2002 年の調査では、7 月は最大 40 個、最小 10 個、1 日あたり平均 18.5 個、8 月は最大 4 個、最小 0 個、1 日あたり平均 2.0 個の産卵床が確認されている。また 2003 年の調査では、7 月は最大 13 個、最小 0 個、1 日あたり平均 3.8 個、8 月は最大 8 個、最小 0 個、1 日あたり平均 4.2 個の産卵床が確認されている。

調査回数が少ないこと、産卵始期である 6 月に観察を実施できなかったこと、2003 年の 7 月は降雨の影響により例外的に産卵床数が少なかったことなどから、単純な比較は難しいものの、2024 年の産卵床数は過去の調査と比較して遜色ない数であるように思われた。なお調査範囲外の長浜市西浅井町の大浦湾北東部付近や、高島市マキノ町海津大崎付近においても、産卵床数 5~20 程度の繁殖コロニーを 4 か所確認した。

本種の繁殖が現在も"順調"に行われていることが確認され、今後の外来魚対策事業の動向や環境変化により、再度、資源量が増加に転じる可能性があるかと推測された。



ブルーギルの産卵床保護雄（2024年7月20日に撮影）